

マイクロソフトへの感謝

ゴルフの話

プロゴルフのメジャー競技は、ギャラリーが多く、重々しい雰囲気を感じられるが一打一打のショット、パットがギャラリーを沸かせる。最終日、18番ホールで優勝が決まる。

この場面で思いもよらないべたピンショットで、あるいはロングパットがまさかのカップイン、ギャラリーの轟くような大歓声を浴びる。

これぞゴルファーの醍醐味であろう。

私もゴルフ歴長いので素晴らしいファインショットを打ったことはある。ホールインワン（GMG 八王子南 7 番ショートホール）やミドルホールのイーグルショット（鶴ヶ島 GC 東 3 番 390 ヤードミドルホール）を経験している。ホールインワンはキャディ付であったが保険に入っていなかったのでキャディに 1 万円、同伴プレーヤに昼食 + 5000 円の商品券で事を済ませた。

いずれもプライベートな無観客でのプレーなのでプレーヤーの自己満足で終わった。

携帯電話機のゲーム試作

話の本題はそういうことではなくてプログラム開発の話である。

59歳で早期退職し「携帯 java によるゲームプログラミング」講座をテラハウス（東中野）で3か月受講した。

そして、”60歳からのプロゴルファー”ならぬ60歳からのプログラマー”を目指すことになった。

老若男女約20名のクラスで座席固定で先生は30台前半の女性であった。まるで小学校の授業みたいであった。科目は、ブラウザの画面表示ソフト HTML 言語や携帯 JAVA 言語について学習した。例題のプログラミングリストを講師が PC 上でタイピングして、それがスクリーンに投影されて生徒も各自の PC にタイピングして実行させる。

結果が表示され、タイピングミスがなければ教材と同じ結果が表示される。これの繰り返しで、言語についての細かな説明があるわけではなく、教材の通りコーディング入力すればプログラムが作成されるわけで

見よう見まねで覚えろということであろう。この講義内容に幻滅して受講放棄した女性が1名いた。

59歳はまだ裸眼でテキストの字が読めた。70を超えた今現在老眼鏡なしには見えない。細かな作業ができる最後の機会だったといえる。

受講期間途中に理解度を試すための試験もあって、最後に修了成果として3日程度の受講時間内で各自自由題材で携帯ゲームを試作した。

携帯 JAVA 言語は、通常の JAVA のミニサブセットになっている。JAVA の特徴は周期割り込みや、イベントドリブンの割り込みの関数が用意されていて、OS やハードに依存せず、APL が開発しやすくなっている。

開発した携帯 APL は携帯電話機シュミレーターで実行させる。このシュミレーターは PC 上で携帯電話機メーカーの代表的機種の外観を表示していて、作成したプログラムを実行させると画面上でゲームが始められる。発表会ではブラウザ画面でのアニメ表示や、釣りゲーとか金魚すくい、テニスの真似事とか他愛無いものが多かった。

私の作成したゲームはインベーダゲームを目指して、移動する敵が弾を連続的に打ち込んできて、自機はそれを避けながら反撃していく。敵機に当たると銃撃を受けた部分が欠落していく、まさにインベーダの原型を実現した。この動作をみて受講生たちから驚きの歓声が上がったのである。ある受講生からはこれで音が出れば有料で買っても良いとの声も聞こえた。講師からも本格的にゲーム開発に取り組んでも良いのではとのコメントを頂いた。

講座終了後は、自宅で敵機追加や銃弾の発射音や機体命中音を入れた。このシューティングゲームの延長で昭和50年台に人気のあったブロック崩しゲームも作成した。そして、あるゲーム会社主催の携帯ゲームコンテストに参加し、サーバに登録申請し了承され、UPLOAD した。NEW ゲームデビューということでゲーム会社サーバの TOP ページに掲載され、それから数日で1000アクセスを達成した。1か月後ぐらいには、20アクセス程度になってしまい、バージョンアップしていないので半年後にはアクセスが1、2件/日程度となり、しばらくして登録削除されてしまった。最終的には25000アクセスを達成していた。インベーダの画像作成で、各種携帯への対応（画面の大きさが異なるので画面の境界を検知して折り返さないとプログラムエラーになってしまう）が必要となるが、目黒区のほ

うにある小さなゲームソフト作成会社にアピールして、さすがに契約とかは得られなかったが、実機の試験のために各種の携帯が所蔵されているので試験のために利用してよいとの反応を頂いた。また、中国での携帯普及のためにある通信会社で携帯 APL を集めているので貴兄のゲームを購入したいとのメールもいただいたことがある。ただ購入していただくには画像ができないと、大した金額にはなりそうもなく無視した。

そのうち、スキルアップの講習の受講期限（小泉内閣で痛みを伴う改革ということで退職後の数年以内に授業料無料の各種講座受講期限が設けられていた。）がせまってきたのでデータベース系の講座を中心に受講した。携帯ゲームの開発はお預けとしてしまった。MS-access や MS-SQL サーバ、ORACL サーバなどの SQL 言語や Visual-basic による APL を経験できた。

企業内交換機の運用保守

62 歳になって企業内交換機の運用メンテナンスの仕事をするようになった。

プログラマーとしてのソフト開発は契約業務内容の範囲外であったが呼毎の通信記録を MS-Excel で編集して同時接続数を計算するソフトウェア（翌日にまたがる通信あり）や番号データ列群で違いを見つけるプログラムを Visual Basic で作成し大変有効であった。

そして70歳を超えた現在、運用メンテナンス業務終了の時期を迎えることとなった。

振り返ってみて、

MS ソフトのエクセルはデータ編集で、PowerPoint は機能的な図面作製で技術者にとって必携のソフトといえる。若いうちから利用できていれば仕事も大変充実したものとなったであろう。VisualBasic も HELP が有効でプログラム開発はそれほど難しくない。

excel は私的にも確定申告など経費計算でなくてはならないものになっている。大量のデータを種別ごとに集計できるピボットテーブル機能も面白い。

MS-Offices に感謝、感謝である。

2016.3.28 石黒敬太郎 記